授　業 科目名	【Ｇカリキュラム】　刑法(総論)Ⅱ　※本年度は開講せず 【ＥＦカリキュラム】　刑法総論Ⅱ	選択	開講年次	【Ｇ】2 【EF】2	単位数	【Ｇ】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【Ｇ】教科及び教科の指導法に関する科目（−・−・−・−）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（−・−・−・−）					
担当形態	単独	【Ｇ】教員の免許状取得のための　（−・−・−・−）科目 【EF】教員の免許状取得のための　（−・−・−・−）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	どのような場合に犯罪が成立するか？どのように刑罰が適用されるか？		担当者	小野上　真也		
授業概要	【概要】 刑法は、ひとたび犯罪が認められた人に対して、刑罰をもって臨む峻厳な法律です。刑罰には死刑（生命を奪う刑罰）、懲役・禁錮（身体の自由を奪う刑罰）、罰金（財産を奪う刑罰）などがあります。このような刑罰が科せられる前提として、そもそも、どのような要件が充たされれば「犯罪」が成立するのかが明らかでなければなりません。本講義では、刑法総論Ⅰでの学習を踏まえて、責任、不作為犯、未遂犯、共犯に関する部分を検討します。 【到達目標】 どのような場合に犯罪が成立するか、自らの力で考え、一定の合理的な理由付けができるようにすることを目標とします。					
履修条件	原則として、刑法総論Ⅰ（小野上担当）を履修済であること。					
教科書・ 参考書	【教科書】 曽根威彦『刑法総論』（第4版）（弘文堂、2008年）を中心に講義を行います。 なお、近時の学説・判例につき、松原芳博『刑法概説』（成文堂、2018年）でもフォローします。 【参考書】 曽根威彦『刑法原論』（成文堂、2016年）、松原芳博編『刑法の判例（総論）』（成文堂、2011年）、松原芳博『刑法総論』（第2版）（日本評論社、2017年）、高橋則夫『刑法総論』（第4版）（成文堂、2018年）					
授業回数	授業内容					
1	責任論総説・責任能力					
	予習：違法行為者を「非難」することの意義	復習：非難可能性としての責任、責任主義の意義				
2	責任条件・故意					
	予習：犯罪事実の認識の内実について	復習：故意の認識対象と故意の種類、違法性の意識の可能性について				
3	具体的事実の錯誤					
	予習：同一構成要件内部で錯誤があっても故意犯は成立するか	復習：（抽象的）法定符合説と具体的（法定）符合説からの帰結				
4	抽象的事実の錯誤					
	予習：異なる構成要件間で錯誤があっても故意犯は成立するか	復習：構成要件的符合の「実質的重なり合い」について				
5	違法性の錯誤					
	予習：法が禁止する内容の錯誤と故意の成否の関係	復習：判例・学説の相違、違法性の錯誤と事実の錯誤の区別について				
6	過失犯					
	予習：刑法の文脈における「注意義務違反」とは何か	復習：新旧過失論の論理構造と結果の予見可能性の位置づけ				
7	不作為犯					
	予習：「作為義務」の違反とは何か	復習：作為義務の発生根拠論（とく支配領域性説）				
8	未遂犯総説					
	予習：「実行の着手」「実行行為」とは何か	復習：形式的客観説・実質的客観説の意義				
9	不能犯・中止犯					
	予習：未遂犯における「危険」概念について	復習：「危険」の意義と、中止行為・任意性について				
10	正犯と共犯					
	予習：犯罪を主導する者（正犯）・加担する者（共犯）の意義	復習：間接正犯論、正犯・共犯の区別について				
11	共犯の基礎理論					
	予習：自ら単独で結果を発生させ得ない共犯がなぜ処罰されるか	復習：共犯の処罰根拠論、共犯の本質について				
12	共同正犯・教唆犯・従犯					
	予習：共同正犯・教唆犯・従犯（幇助犯）の違い	復習：共謀共同正犯論（学説と判例の展開）について				
13	共犯の諸問題（１）：共犯の因果性、共犯と身分、片面的共犯					
	予習：正犯と共犯における因果性の違い、身分犯の意義	復習：（csqn）条件関係説・促進関係説の意義について				
14	共犯の諸問題（２）：承継的共犯、必要的共犯、共犯関係の解消、共犯の錯誤					
	予習：正犯の実行途中からの関与、共犯者間の錯誤の意義	復習：共犯の処罰根拠・因果性と本講義のトピックスとの関係について				
15	後期のまとめ：学習到達度確認テストおよび解説					
	予習：第1回から第14回までの講義内容の総復習	復習：学習到達度確認テスト解説の再検討				
評価方法	学習到達度確認テスト（90%）+受講態度（10%）					
評価基準	上記授業単元の内容について、問題の所在、学説・判例の状況をよく理解し、それらを踏まえて、判例・学説の各事案へのあてはめ、私見を的確・適切に表現できた者にはその程度に応じて「Ｓ」または「Ａ」を与えます。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「Ｂ」または「Ｃ」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「Ｄ」または「Ｅ」とします。なお、試験欠席など、評価不能の場合には「Ｆ」とします。					
その他	教科書、六法（最新版）を持参して下さい。毎回、レジュメを配布します。予習に際しては、上記のほか、レジュメ裏面の「次回予告」に記載された事例を検討しておいてください。予習・復習には、各120分程度かかるものと思われます。講義中の私語・携帯電話の使用等、講義内容に無関係のことを行っている者には、退室を命じることがあります。 ※Gｶﾘ：法【−】ｽﾎﾟ【−】情【−】／EFｶﾘ：法【−】ｽﾎﾟ【−】経【−】					